

企業において従業員の被服の選択肢が広がる影響に関する研究

1240513 松岡紺

指導教員 金東勲

研究背景

近年、社会が急速に変化する中で、その変化は企業で働く人々のライフスタイルや価値観にも大きな影響を与えている。企業は、多様性の尊重や自律性の促進、業務効率向上などの目的をもって従業員の服装に関する変革を行なっているが、これらが実際に企業や従業員にとって有益な効果を示しているかについては研究の余地がある。

研究目的

本研究は、企業のドレスコードもしくは服装規定の緩和などによって、職場における従業員の被服選択の幅が広がることが企業全体のパフォーマンスにどのような影響を与えているのかを明らかにすることを目的とする。

研究方法

「従業員の服装の選択肢が広がると、企業のパフォーマンスにポジティブな影響を与える」という仮説を立て、分析対象企業の公開データを用いて仮説検証を行う。また、企業別に分析を行うためにパネルデータ分析を用い、企業パフォーマンスの変化を観察する。

分析結果

売上高とドレスコード変化の有無、売上高営業利益率とドレスコード変化の有無のそれぞれに正の相関関係を確認した。さらに、パフォーマンスに対して売上高と売上高営業利益率が有意な影響を持つことが示された。

考察・結論

企業の業績と業績に影響を与える要因においてパネルデータを構築し、ドレスコードの変化が企業の業績に与える影響について研究した結果、企業内でドレスコードに変化があるとき、企業全体のパフォーマンスに正の影響を与えることを示した。これは、従業員における被服選択の幅が広がることが企業の業績向上に寄与することを示唆する。先行研究と本研究の分析結果を用いて考察を行うと、服装の自由化は、職場のコミュニケーションやモチベーション向上に影響を与え、良好な雰囲気を形成することで新たな価値の創造を促進させるため、結果的にパフォーマンス向上に寄与すると考えられる。